

# 個人投資家の皆様へ

---

2010年7月



**第一実業株式会社**

証券コード：**8059**

1. DJKについて
2. DJKの取扱事業
3. DJKの強み



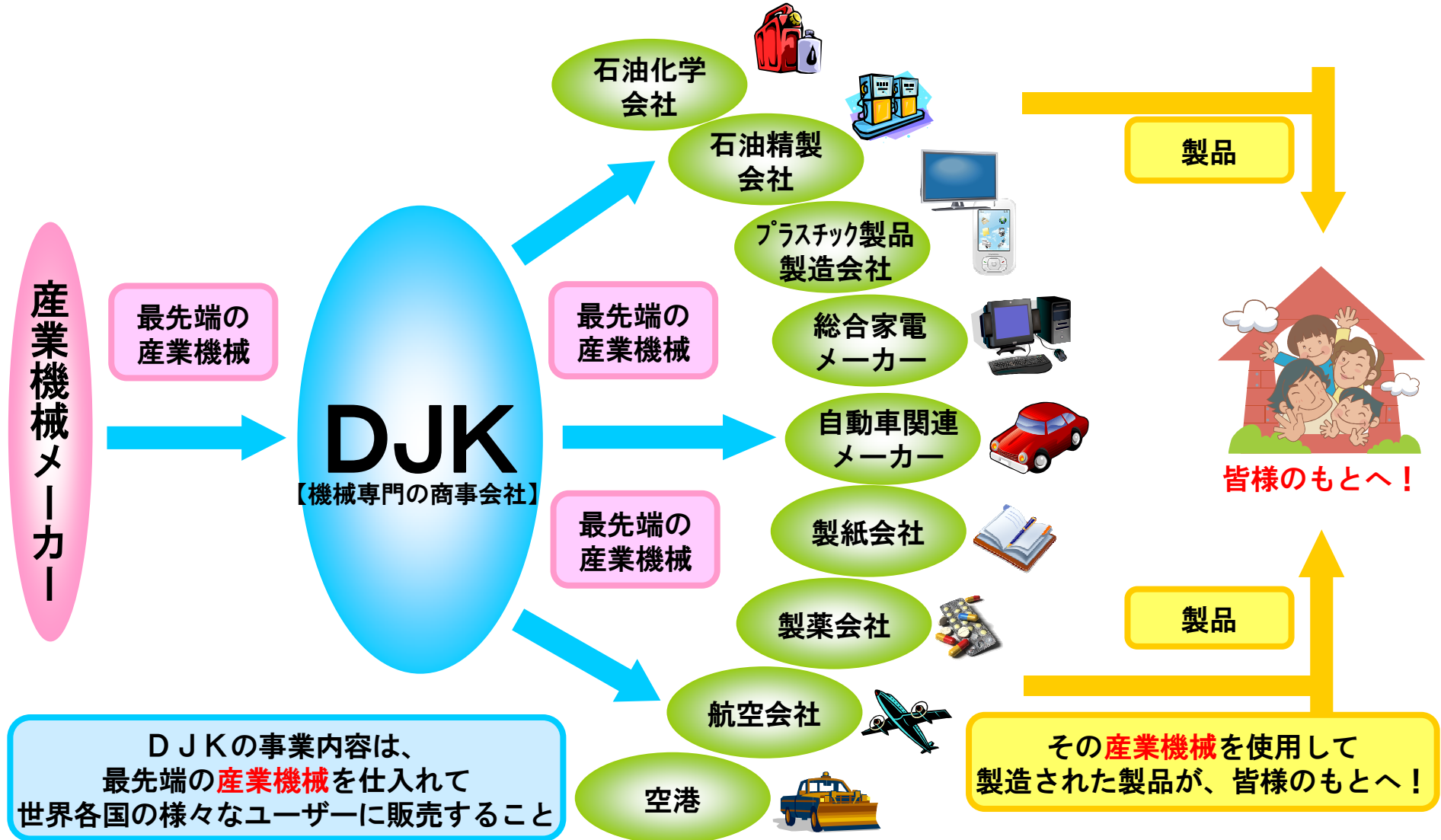
# 会社プロフィール

 DAIICHI JITSUGYO CO.,LTD.

会社名	第一実業株式会社	 本社
英社名	DAIICHI JITSUGYO CO.,LTD.	
設立	1948年（昭和23年）8月12日	
株式上場	東証一部（コード8059）	
代表者	代表取締役社長 矢野邦宏	
本社所在地	東京都千代田区二番町11番19号	
資本金	51億500万円	
売上高	851億円（2010年3月期）	
事業内容	プラントおよび機械器具の国内販売並びに輸出入	
主要仕入先	三菱重工業(株)、三菱化工機(株)、三菱プラスチックテクノロジー(株)、アンドリッツ(株)、パナソニック(株)、(株)ノリタケカンパニーリミテド、(株)浅野研究所、(株)第一メカテック、第一実業ビスウィル(株) など	
主要販売先	コスモ石油(株)、新日本石油精製(株)、(株)日本蝕媒、中越パルプ工業(株)、東洋エンジニアリング(株)、(株)デンソー、豊田合成(株)、日本サムスン(株)、イビデン(株)、(株)パイオラックス、全日本空輸(株) など	
従業員数	単体428名、グループ合計1,024名（2010年3月31日現在）	
グループ会社	国内10社、海外18社 合計28社（2010年3月31日現在）	
事業所	国内8拠点、海外32拠点、サービス研究センター 1 拠点	

# 事業内容

第一実業（DJK）は「機械専門の商事会社」であるため、皆様から馴染みが薄いように思われているかもしれませんが、しかし、DJKは皆様の身近なところで活躍しており、生活に深く関わっております。



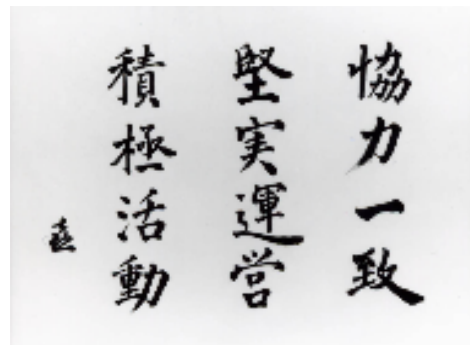
DJKの事業内容は、最先端の**産業機械**を仕入れて世界各国の様々なユーザーに販売すること

# 脈々と受け継がれる創業の精神

第二次世界大戦の終結後、さまざまな産業分野を独占していた財閥が解体され、市場に競争原理が導入されました。

このとき解体された「浅野財閥」に関わる人材の中から、後の第一実業株式会社（DJK）の創業メンバーが輩出されました。

1948年（昭和23年）、後に初代社長となる倉持正次郎を含む全7名を発起人として会社を設立。商号を「**第一実業**」と定め「**機械専門の商事会社**」としての一歩を踏み出しました。



創業後、倉持は、「**社是三原則**」を打ち出しました。

戦後の混乱期にこのような明確な経営理念を打ち出す企業は珍しかったようです。

この「**協力一致 堅実運営 積極活動**」という社是三原則は、創立60年を過ぎた現在もなおDJKの企業風土に脈々と受け継がれております。

倉持は、当時横行していた闇取引を一切認めず、

1. **機械の売り買いのみに徹する**
2. **大企業・一流企業を取引相手とする**
3. **銀行との信頼関係を大切にする**

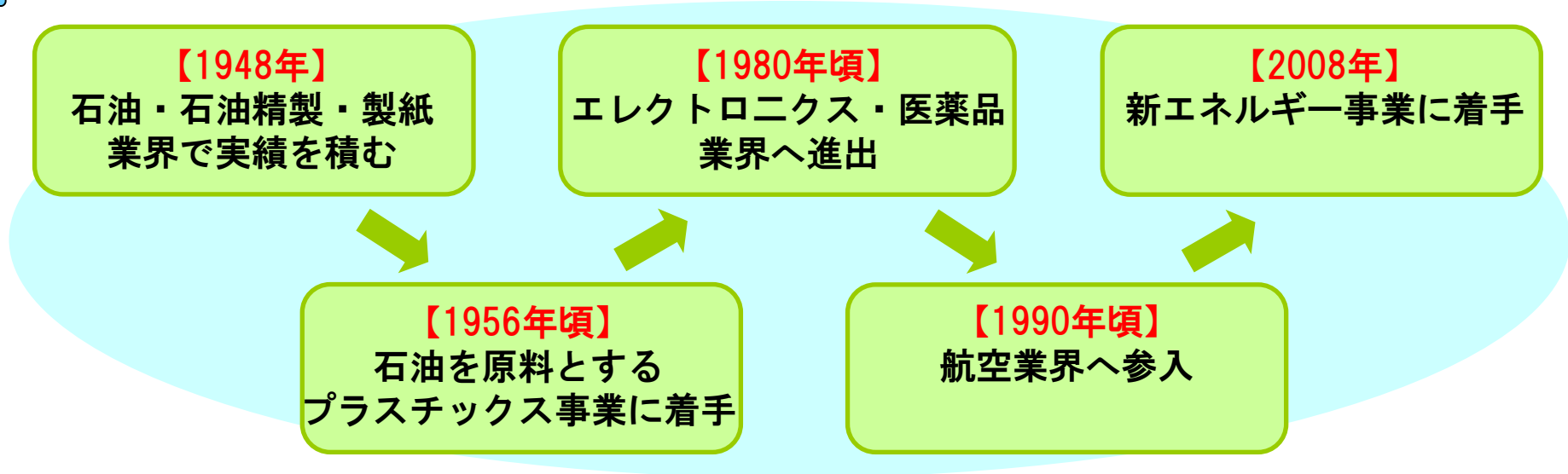
ことに徹底しました。

投機性のない商売を地道に続け、信頼できる相手を選び、毎月銀行に業績を報告し続けた結果、DJKは**誠実で堅実な企業として、周囲の信頼を獲得し、着実に成長してまいりました。**

このような精神も、現在のDJKに深く根付いております。

# DJKの歩み

## 主な事業展開



## 沿革

- 1948 資本金48万円にて東京都品川区に創立  
石油・石油精製・製紙業界を開拓
- 1952 大阪出張所を開設し、関西へ進出
- 1956 プラスチック事業に着手
- 1962 初の海外事業所を台湾に開設  
東京証券取引所第二部に上場
- 1964 自動車業界に参入
- 1970 子会社第一機械サービス(株)を設立  
(現(株)第一メカテック)

1948～  
1970

- 1974 東京証券取引所第一部に上場
- 1979 医薬品業界へ進出
- 1982 エレクトロニクス業界へ進出
- 1989 第32回増資により資本金51億500万円
- 1990 航空業界へ参入

1971～  
1990

- 2004 (株)ルネサスハイコンポーネンツより半田印刷検査装置事業などを譲り受け、第一実業テクノロジー(株)を設立 (現(株)DJTECH)
- 2005 カネボウビジョンシステム(株)を買収し、第一実業ビスウィル(株)に商号変更
- 2007 国内全事業所でISO14001認証を取得
- 2008 日本格付研究所より「BBB+(安定的)」の評価を取得  
新エネルギー事業に着手
- 2009 (株)浅野研究所を持分法適用会社化
- 2010 子会社DJKイノバリュ(株)を設立

1991～  
2010

# DJKのグループ会社

 DAIICHI JITSUGYO CO., LTD.

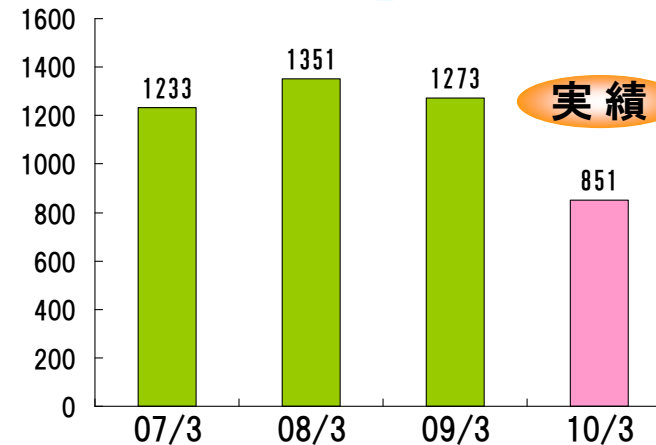


# 業績（連結）

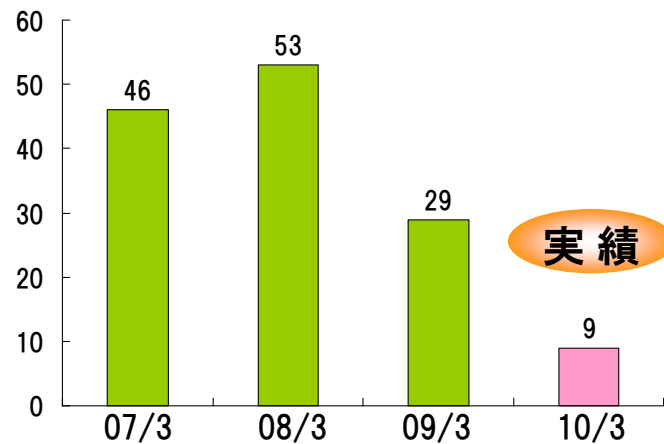
金額単位：億円

2010年3月期の業績は、企業の設備投資の抑制に加え、深刻な雇用情勢や個人消費の低迷などの影響を受け売上高、営業利益、当期純利益とも低調に推移しました。

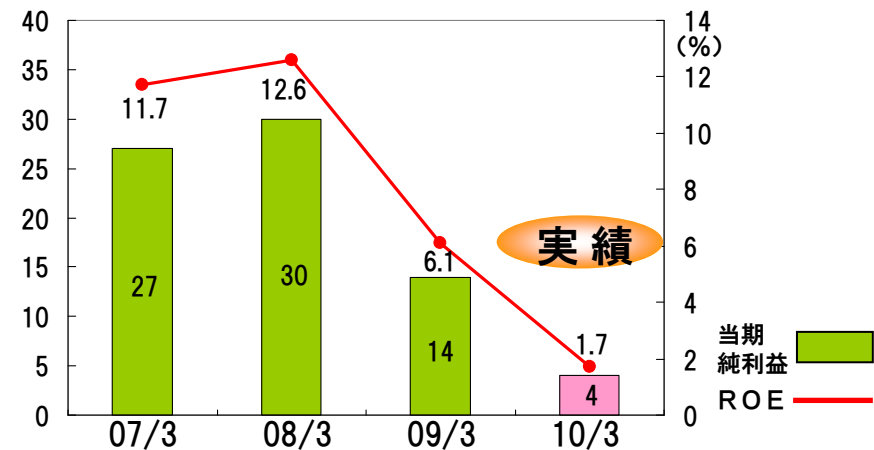
## 売上高



## 営業利益



## 当期純利益・ROE





# 新中期経営計画

2010年度からの新中期経営計画『ACT2012』においては、これまで推進してまいりました海外事業展開の地域軸をさらに拡大し、また、新規成長分野である環境に配慮した事業などに積極的に取り組むとともに、財務体質の更なる強化を図り、企業価値の向上に努めてまいります。

## ■ 定量目標【連結経営目標】

単位：百万円

	2009年度 (実績)	2012年度 (計画最終年度)
売上高	85,058	127,000
売上総利益	11,104	17,200
営業利益	941	5,100
経常利益	1,241	5,100
当期純利益	363	2,900
総資産	55,096	71,000
自己資本	21,714	27,000
有利子負債	5,477	6,500
ROE	1.7%	11.2%
ROA	2.1%	7.4%
DER	0.25倍	0.24倍



## ■ 定性目標

### 事業収益基盤の強化と拡大

- グローバル展開の更なる推進
- 新規成長分野への取り組み強化
- コア・ビジネスの徹底強化

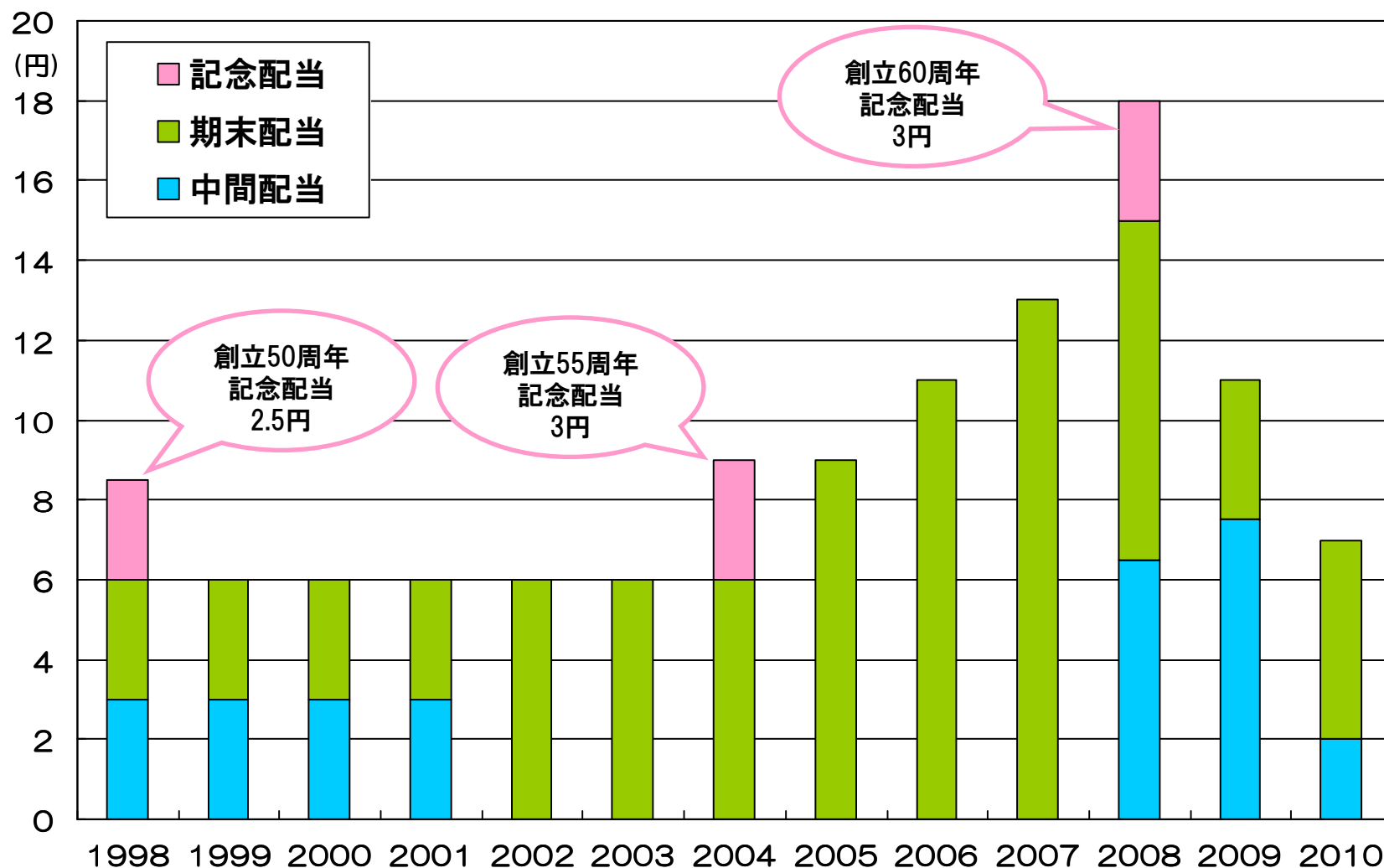
### 連結経営の高度化・効率化の推進

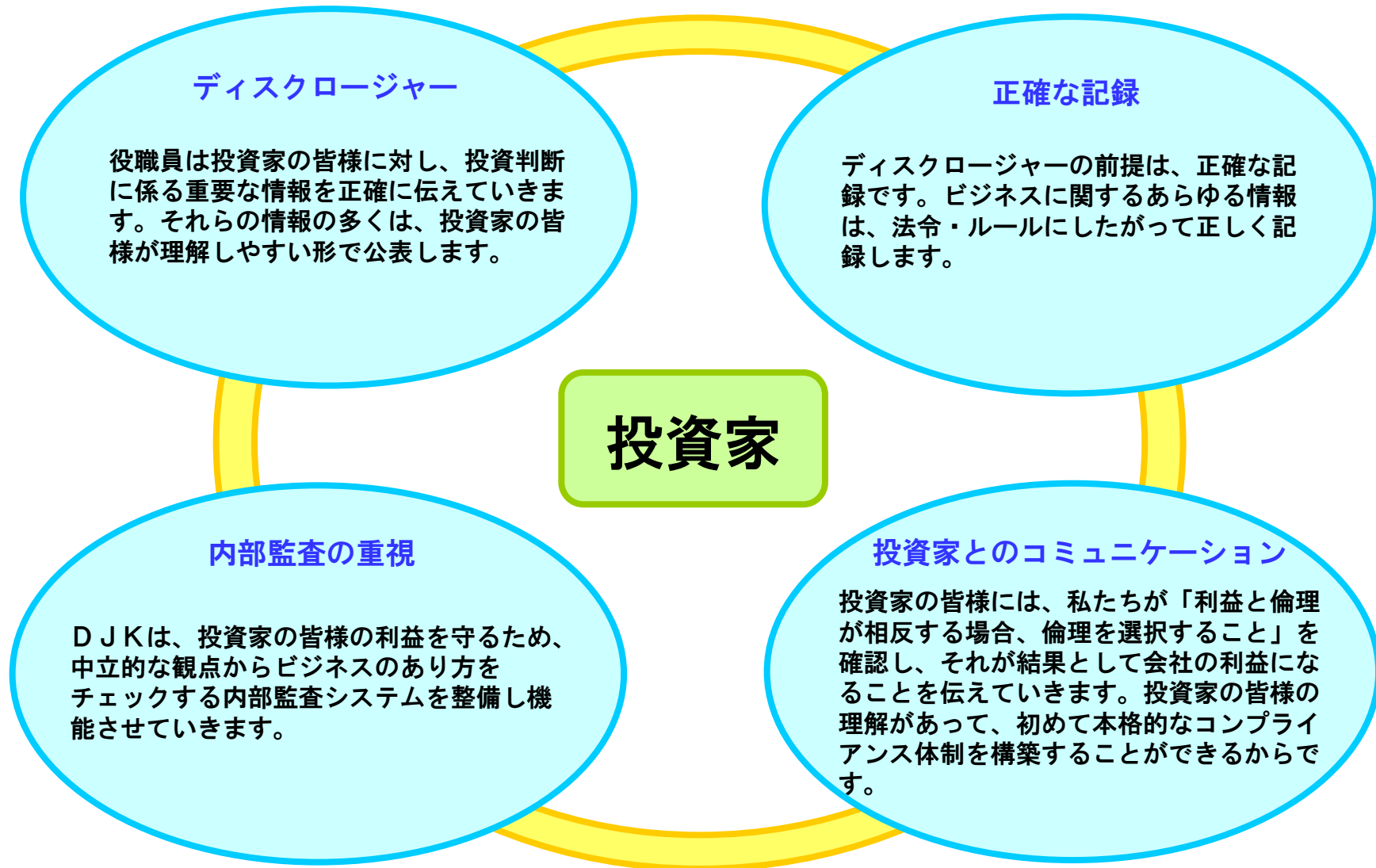
- 財務体質の更なる強化
- 組織改革および人財の育成
- 経営システムの整備・強化

# 配当政策

DJKは、東証二部に上場した1962年以降、継続して配当を実施しております。2006年3月期より「安定継続配当」から「業績に応じた適正配当」へと配当政策を転換し、配当性向は単体利益に対して30～50%を目処としております。

DJKは、株主様に対する利益還元を重要政策の一つとして位置づけております。





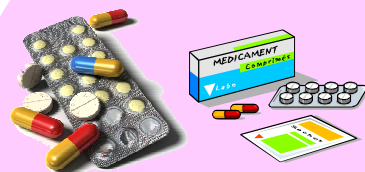
## 2. DJKの取扱事業



# DJKの取扱事業

 DAIICHI JITSUGYO CO.,LTD.

皆様の身近なところには、DJKと深く関わっている製品がたくさん存在しております。  
詳しくは次項以降で紹介しますが、例えば、携帯電話やテレビ、自動車などの一部は、DJKが販売している機械で製造されております。他にも日常生活に必要不可欠な様々な製品を取扱っており、DJKは皆様の生活に密着しております。



医薬品事業



エネルギー事業



エレクトロニクス事業  
プラスチック事業



紙・パルプ事業



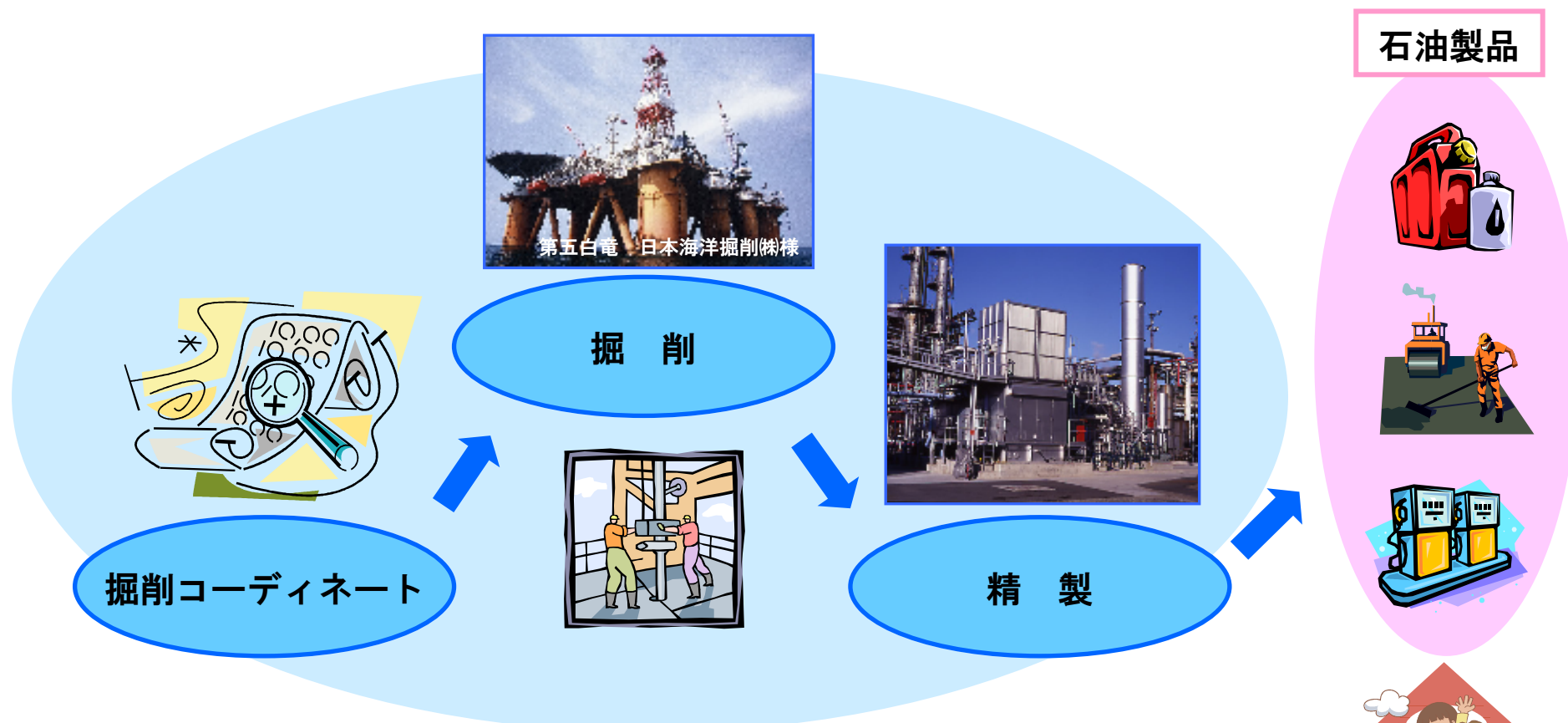
 **第一実業株式会社**  
DAIICHI JITSUGYO CO.,LTD.



航空事業

# エネルギー事業

エネルギー事業は、DJKの主幹事業です。創業以来、皆様の生活や産業界全体に必要な不可欠なエネルギー、特に石油関連ビジネスを行ってきたDJKは、この事業において非常に幅広いノウハウを持っております。最近では、石油だけではなく風力発電や太陽光発電に関する設備も扱い、新エネルギー時代の到来に向けた新たな一歩を踏み出しております。



日常生活に必要な不可欠なエネルギー。  
エネルギー事業はDJKの主幹事業であり、掘削コーディネートから石油精製に至るまで、あらゆるプラント装置を販売しております。

皆様のもとへ！

# エレクトロニクス事業

皆様の生活必需品となっている、携帯電話、テレビ、パソコン、デジタル家電などのあらゆる電化製品には、プリント基板と呼ばれる緑色の基板が内蔵されております。そのプリント基板は、電気製品の主要な部品のひとつであり、多数の電子部品が搭載されております。

DJKのエレクトロニクス事業では、そのプリント基板に電子部品を搭載する表面実装機（チップマウンター）やその周辺機器を、総合家電メーカーを中心に納入しており、プリント基板製造の全工程をサポートできる体制を構築しております。

皆様のお手元にある携帯電話やパソコンも、DJKが販売した機械によって製造されているかもしれません。



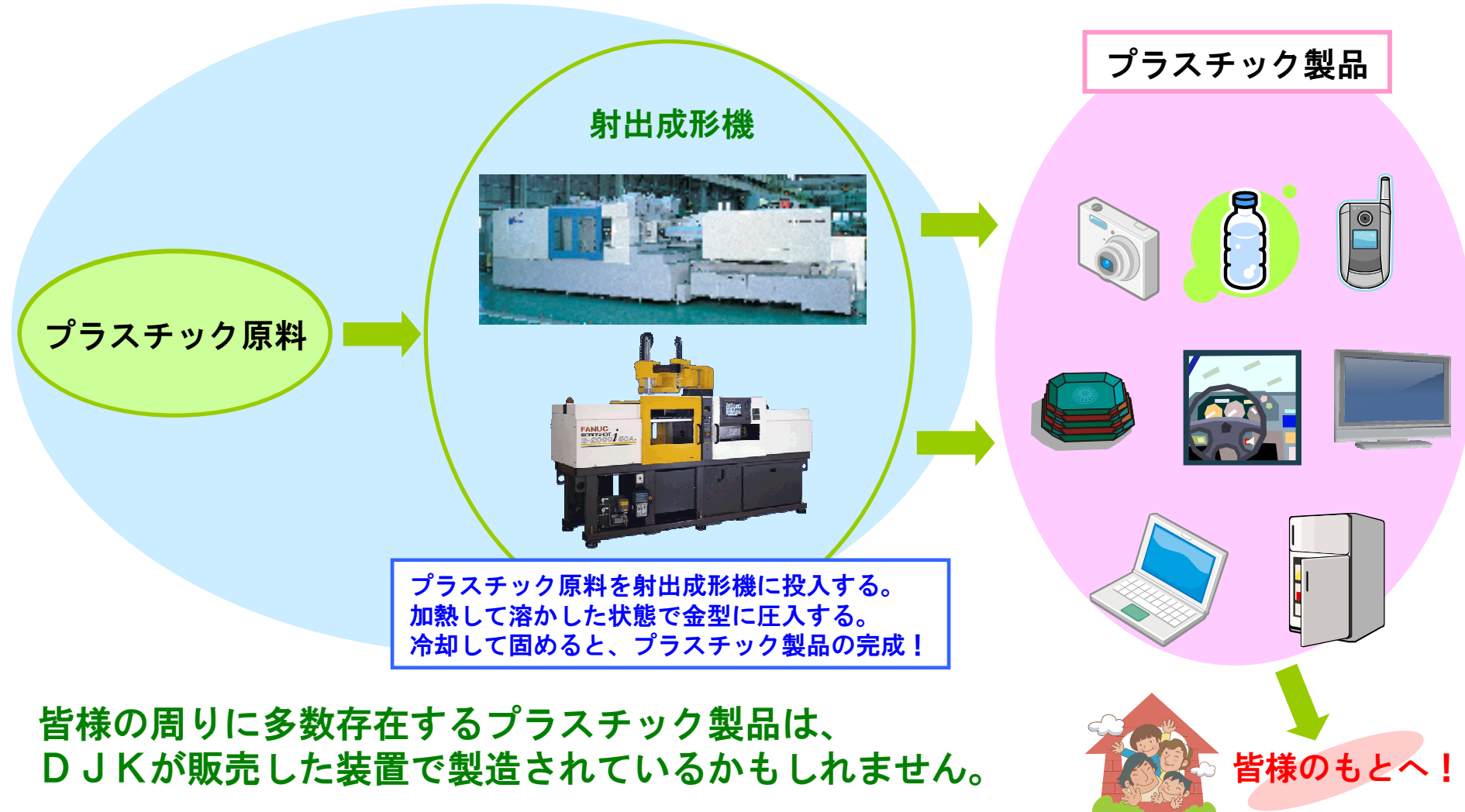
表面実装機を中心にプリント基板製造装置を取扱っているDJKは、皆様の生活の身近なところで活躍しております。

皆様のもとへ！



# プラスチック事業

エレクトロニクス事業では、電化製品に内蔵されているプリント基板の製造に携わっていることを説明しました。プラスチック事業では、射出成形機と呼ばれる携帯電話の表面、テレビやパソコンのフレームなどを製造する装置を主に扱っております。他にも、プラスチック製品の製造工程に必要な付帯装置をトータルに扱っております。電化製品などの内蔵部分と外箱部分の製造に携わっているのがDJKです。

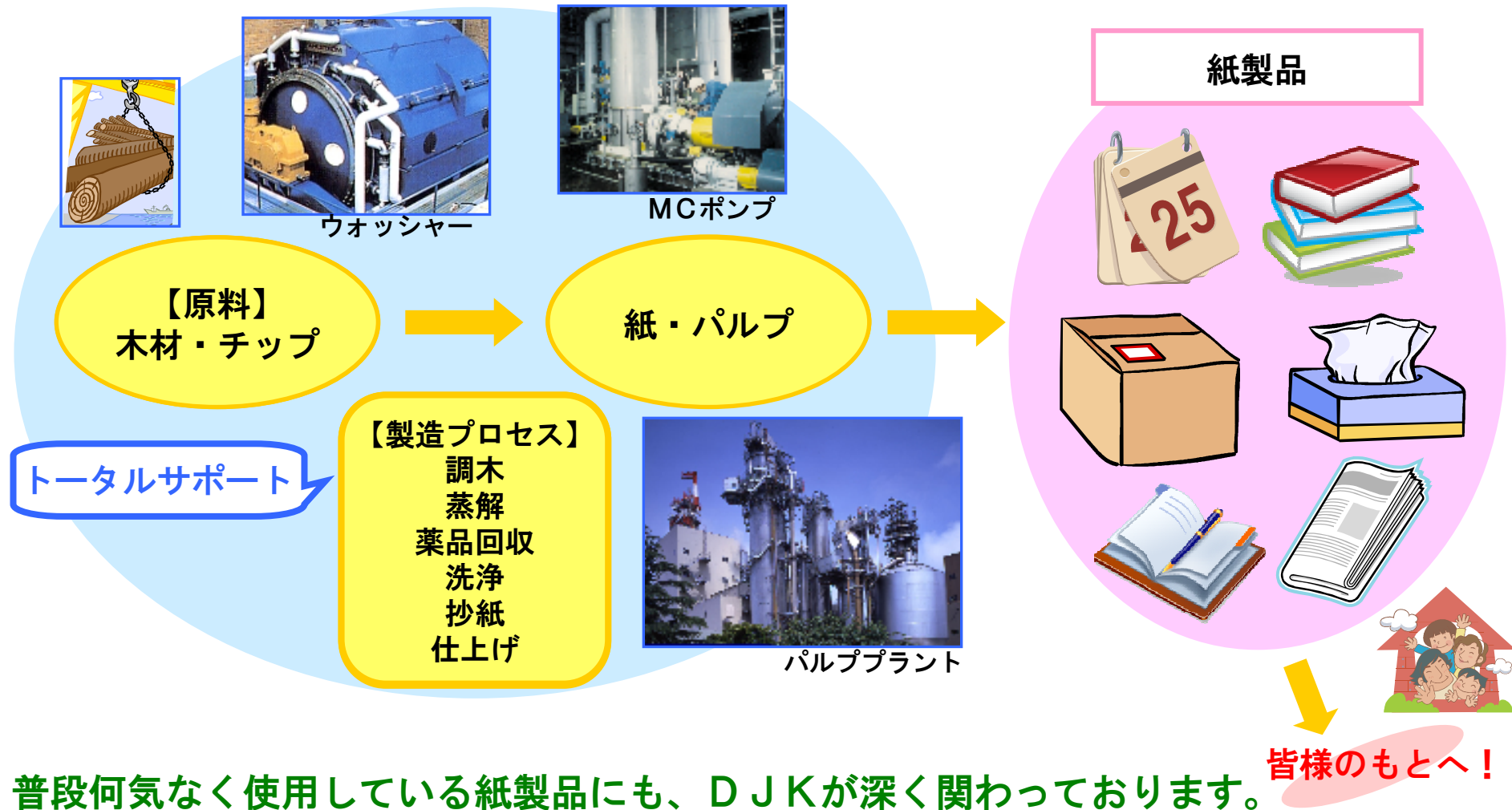


皆様の周りに多数存在するプラスチック製品は、  
DJKが販売した装置で製造されているかもしれません。



# 紙・パルプ事業

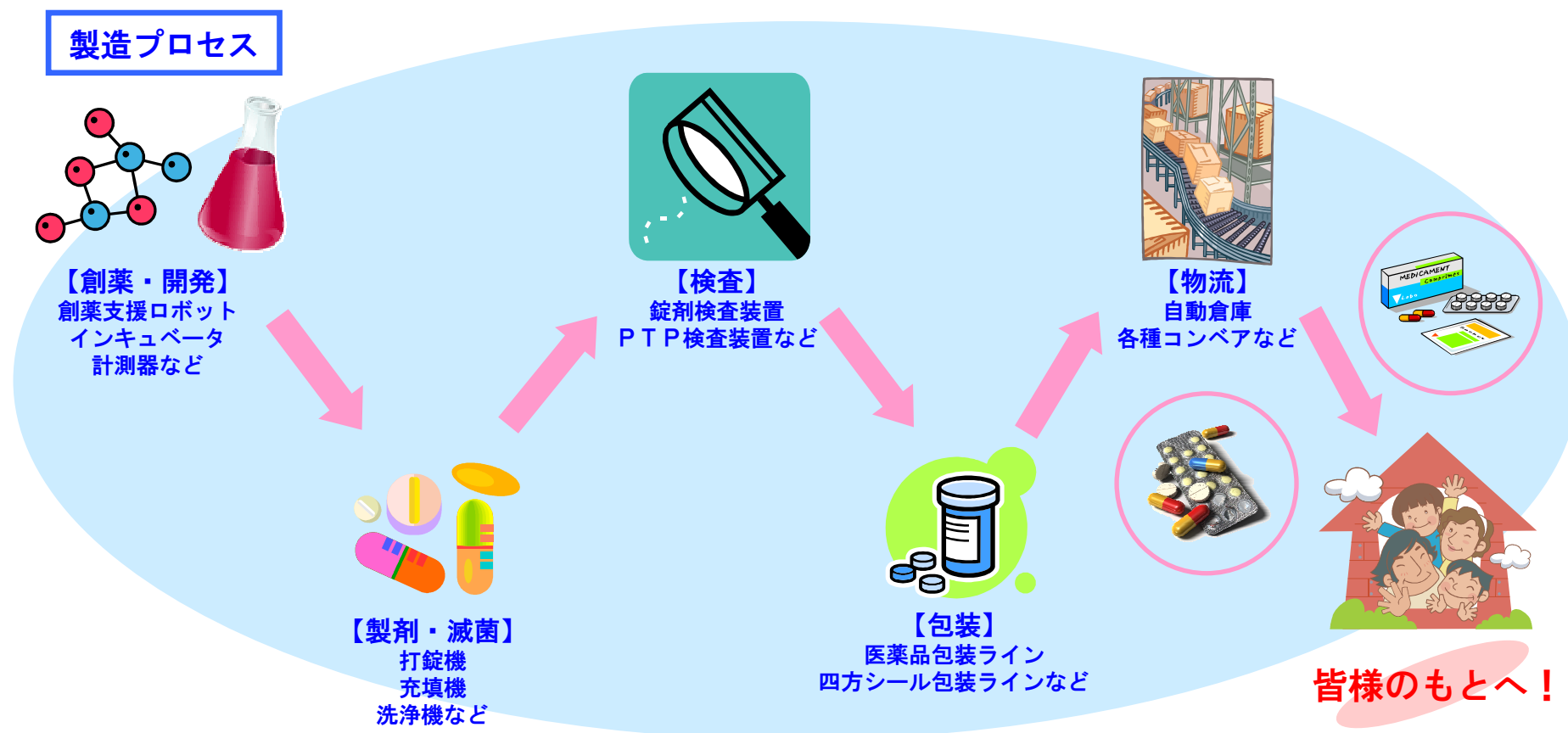
日常生活に欠かすことのできない紙にも、DJKが深く関わっております。  
原料となる木材チップから紙・パルプを製造するためのあらゆる設備を大手製紙会社に納入し、紙が皆様に届くまでの、製造に関するトータルサポートを行っております。



普段何気なく使用している紙製品にも、DJKが深く関わっております。

# 医薬品事業

健康・安全のためには欠かせない医薬品。人間の体に入るものであるからこそ、より慎重に製造しなければなりません。DJKでは、その医薬品の製造工程に必要な機械をトータルに取扱っております。特に、DJKのグループ会社である第一実業ビスウィルが製造する錠剤検査機は、検査機業界の中でトップシェアを誇っております。皆様に安心・安全な医薬品をお届けするために、DJKは高性能な機械を、大手製薬会社を中心に納入しております。



DJKは、各製造工程で使用される機械をトータルに取扱っており、皆様に安心・安全な医薬品がお届けできるよう、サポートしております。

# 航空事業

DJKでは、航空機・空港関連の設備も取扱っております。

DJK航空事業の主要取扱商品であるデアイサーは、航空機に付着した氷や雪を取り除く装置で、現在国内に配備されているデアイサーの約65%は、DJKが納めたものです。

他には、空港内で航空機を牽引するトーイングトラクターや、滑走路上に降り積もった雪を除去する除雪車、爆発物の有無を検知する爆発物検知装置を、空港や大手航空会社に納入しており、皆様の安全な空の旅をサポートしております。



**安全！安心！快適！**



デアイサー



トーイングトラクター



除雪車

皆様に安心して飛行機を利用していただけるよう、  
DJKは様々な空港設備を取扱っております。

# 3. DJKの強み



# DJKの強み① グローバル展開

DJKグループは、世界4軸体制として米州・欧州・中国・東南アジアに軸を置いた海外戦略を展開し、支店、現地法人、グループ会社をあわせて世界19カ国32都市に事業所を設立しております。販売としての機能はもとより、海外に進出している日系企業を中心に現場に密着したフォロー体制を構築するため、各拠点にはローカルエンジニアを常駐させ、メンテナンスなどのサービスを世界の隅々まで提供し、お客様に安心して商品をご購入いただいております。

総売上高における海外売上高比率：  
27.5%  
(2010年3月期連結実績)

## 欧州

フランクフルト  
プラハ  
ブダペスト  
ワルシャワ

## 中近東

ドーハ

## 中国

上海  
天津  
蘇州  
重慶  
香港  
広州  
深圳  
台北  
ソウル

東京本社

## 米州

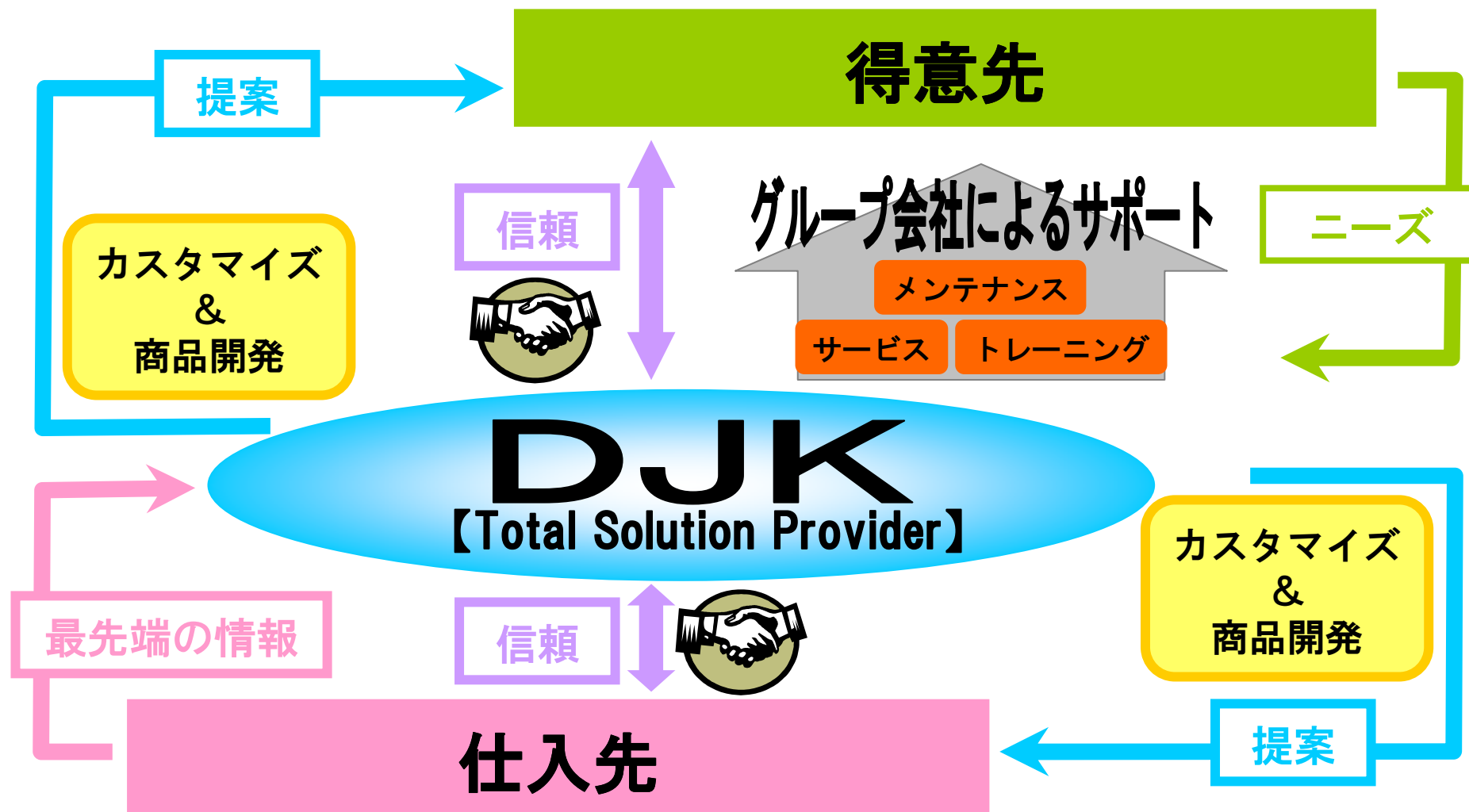
シカゴ  
ノックスビル  
ヒューストン  
プエルトリコ  
ティファナ  
モンレー  
サンパウロ  
マナウス

シンガポール  
クアラルンプール  
バンコク  
マカティ  
ニューデリー  
ラグナ  
バンガロール  
ジャカルタ  
ハノイ  
ホーチミン

## 東南アジア

## DJKの強み② ソリューション体制

DJKグループは、「機械専門の商事会社」として、同業他社にはないトータルソリューションを実践しております。仕入先からの最先端の情報で得意先に提案営業し、得意先から得たニーズを仕入先に伝え、商品開発を促します。これにより、仕入先、得意先双方の商品力向上につながります。また、DJKは、商品の製造・開発・メンテナンスなどを行うグループ会社を抱えており、商品をご購入頂いた得意先へのきめ細かなアフターフォローを実践することが可能です。このように、付加価値の高い開発型・提案型営業を推進していることが、DJKグループの強みであるソリューション体制です。





# DJKの強み③ 堅実性

協力一致  
堅実運営  
積極活動

## 経営理念

冒頭で説明させて頂いたとおり、DJKには創業以来の社是三原則がございます。特に、社是三原則の中の「堅実運営」は、企業文化に深く根付いており、企業活動や役職員のあらゆる業務行動の基になっております。

## 事業展開

DJKは、皆様の日常生活に必要不可欠なあらゆる産業に事業を展開しております。取扱事業の社会的な必要性や、事業領域の広さが、DJKを安定的に成長させております。

## 堅実

## 財務

DJKは、世界的な経済不況の中でも、財務の健全性を維持しております。また、輸出入などの海外取引に関しまして、為替予約を行っており、為替変動リスクをヘッジしております。DJKは、堅実で安定的な成長を目指しております。



2010年3月期	連結実績
自己資本比率	39.4%
固定比率	33.3%
流動比率	148.5%
有利子負債比率	0.25倍

## DJKの強み④ 景気回復時に向けた取組み

 DAIICHI JITSUGYO CO., LTD.

### 太陽電池事業に着手

DJKは、次世代を担う発電コンビナートでの稼働が期待されているタンデム型太陽電池パネルを製造・開発するためのトライアル機（パイロットプラント）の取扱を開始しました。

このトライアル機を導入することにより、顧客企業は初期投資を抑えて、エンジニアを養成しながら、タンデム型太陽電池を自社開発することが可能となります。

DJKは、この商品を足がかりに、太陽電池事業の拡大を目指します。

### 新エネルギー事業の立ち上げ

DJKの強みは、創業以来の主幹産業になっているエネルギー事業のノウハウを持っていることです。

今後は、石油関連事業だけではなく、将来を見据えた新エネルギー事業の確立が必要であります。従って、DJKは太陽光発電や地熱発電、水ビジネスなどの新たなエネルギー・プロジェクトを立ち上げ、景気回復時に向けた次の一手を準備しております。

### プラスチック事業の新たな武器

DJKの主要事業にプラスチック事業があります。プラスチックを成形する過程では、しばしば不良品が発生しますが、DJKはその不良率を改善するための技術力に定評があります。

その不良改善の分野を通じて、顧客企業とのコンサルタント契約や、周辺機器の更なる提案営業を行うことが可能となり、DJKプラスチック事業の新たな武器となっております。

### 新商材の発掘を目指す

DJKのエレクトロニクス事業では、プリント基板を製造する表面実装機（チップマウンター）を中心に取扱っております。

今後は、顧客企業への更なる提案営業を実現するため、新商材の確保や、新ビジネスの確立を目指していきます。

それらに向けた組織体制の構築はすでに完了し、半導体業界での顧客拡大を実現する体制を整えました。



## 最後までDJK会社紹介資料をご覧くださいましてありがとうございました。

DJKがどのような会社で、どのような事業を行っているかご理解頂けましたでしょうか？  
意外と皆様の身近なところで活躍していることがご理解頂けたと思います。

★資料中の新中期経営計画については、ホームページに、より詳細な情報を掲載しております。

【中期経営計画 ACT2012】 <http://www.djk.co.jp/act/index.html>

★DJKの財務内容に関する詳細な情報については、決算短信やFACTBOOKをご覧ください。  
ホームページに掲載しております。

【平成22年3月期 決算短信】 <http://www.djk.co.jp/html/pdf/irk20100513.pdf>

【平成22年3月期 FACTBOOK】 <http://www.djk.co.jp/html/pdf/irs20100531.pdf>

★ご質問等がございましたら、下記にお問合せください。

住 所：東京都千代田区二番町11番19号

担 当：IR・広報室

TEL：03-5214-8613

FAX：03-5214-8503

本資料に記載されている当社の業績見通し、経営目標、その他歴史的事実でないものは、現時点での入手可能な情報に基づき、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。